

# 日本学校ソーシャルワーク学会 第1回全国大会

大会テーマ:「日本の教育システムにおける学校ソーシャルワークの必要性と課題」

## <プログラム>

<1日目>11月4日(土)午後<13:00~17:30>

12:30~ 受付

13:00~14:00 基調講演 講師:門田光司(福岡県立大学)

テーマ:「日本の教育システムにおける学校ソーシャルワークの必要性と課題」

14:10~16:50 シンポジウム

テーマ:「日本の教育システムにおける学校ソーシャルワークの必要性と課題」  
~生徒支援をめぐる教育行政施策との関係性~

- シンポジスト
- ①「大阪府スクールソーシャルワーカー配置事業の動向」  
金澤ますみ(桃山学院大学・大阪府教委SSW)
  - ②「香川県スクールソーシャルワーカー配置事業の動向」  
浜田知美(四国学院大学・香川県SSW)
  - ③「文科省諸施策と学校ソーシャルワーク」  
林 寛之(文部科学省児童生徒課)

17:00~17:30 総会

18:30~21:00 懇親会

<2日目>11月5日(日)午前<9:30~12:30>

9:10~10:10 自由研究発表

- ①「今町小学校における学校ソーシャルワークの実践」  
渡邊安朗(北九州市立今町小学校)
- ②「福井市における居場所づくりの取り組みについて」  
竹澤賢樹(福井県立大学大学院看護福祉学研究科)

10:30~12:00 課題研究

- ①「日本における学校ソーシャルワーク研究・実践の歴史について」  
大崎広行(目白大学)
- ②「学校ソーシャルワークと学校福祉の関係」  
鈴木庸裕(福島大学)

日時: 2006年11月4日(土)・5日(日)

会場: 目白大学(東京都新宿区) 10号館

問い合わせ先 ☆非会員の方の参加も歓迎します。問い合わせは、下記宛、FAX かメールにてご連絡ください。

<大会準備委員会>

〒161-8539 東京都新宿区中落合4-31-1

目白大学 人間福祉学科 大崎研究室

FAX 03-5996-3060

E-mail osaki@mejiro.ac.jp

<日本学校ソーシャルワーク学会事務局>

〒960-1295 福島県福島市金谷1番地

福島大学人間発達文化学類大学院 鈴木研究室

FAX 024-548-8114

E-mail nsuzuki@educ.fukushima-u.ac.jp



# 日本学校ソーシャルワーク学会 設立趣意書

今日、学校教育現場では、子どもたちの不登校やいじめ、引きこもり、非行、学級崩壊等の課題が深刻化している。そして、その対応に際しては学校のみでは対応が困難な状況にあり、学校、家庭、地域の一体的な取り組みが求められている。また、障害のある子どもへの教育に際しても特別支援教育の取り組みでは学習上の困難な対応のみならず生活上の困難にも対応していくことが掲げられ、学校・家庭・地域の関係機関による支援体制の構築が求められている。

このように、今や子どもたちの抱える課題に対して、学校のみでの対応だけではなく、家庭や地域をも含めた対応が求められる時代となってきている。今日の情勢を踏まえ、次世代を担う子どもたちが健やかに自己実現を図っていける環境を築いていくことは第一に大人と社会の責任である。子どもたちの人権と教育及び発達を保障していくために、学校と家庭、地域が一体となって支援していく体制を築いていくことが不可欠である。そのためには、実際的には、教師や保護者、地域の関係機関等がチームワークを形成し、協働して取り組んでいくことが求められる。

ただし、学校と家庭、地域がつながり、チームワークで子どもたちの抱える課題に取り組んでいくことの必要性は十分認識されており、実際には生徒サポートチーム等の立ち上げが行われてはきている。しかし、実際には、学校、家庭、地域をつなぐための手法や効果的な方法は模索され、つなぎ役の人材の必要性も指摘されてきている。

学校ソーシャルワークは、子どもの人権と教育及び発達を保障していくことを目的に、学校・家庭・地域が一体となって支援していくことを基盤にした援助方法である。そして、その援助方法を活用し、学校・家庭・地域のつなぎ役となって子どもが抱える課題に取り組んでいく支援体制を築いていくのが学校ソーシャルワーカーである。欧米では、すでにその役割を担う学校ソーシャルワーカーが活躍している。

しかし、わが国では学校ソーシャルワークの実践研究や学校ソーシャルワーカーの養成に向けた取り組みはほとんど行われてこなかった状況にある。しかし、上記に記したように、今やわが国での子どもたちが抱える課題に対して、どのような学校ソーシャルワーク実践や学校ソーシャルワーカーの養成を図っていく必要があるのかを研究し、検証していくことが切に求められてきている。そのためには、学際的な研究組織を設立していくことが不可欠である。

本学会は、こうした学校ソーシャルワークの研究を深めるとともに実践の方向づけを探り、さらにはわが国での学校ソーシャルワーカー養成のあり方についても方向づけを探ることを目的に、社会福祉と教育、心理、司法その他の関連領域の研究者、実践者の参加を得て設立させるものである。

本学会の設立の趣旨に賛同し、次世代を担う子どもたちの人権と教育及び発達が保障されるための支援を目指す学校ソーシャルワーク研究の発展に情熱を傾けようとするものの参加を心から呼びかけたい。

2006(平成18)年2月

呼びかけ人(代表) 門田光司・福岡県立大学教授  
鈴木庸裕・福島大学助教授  
大崎広行・目白大学助教授  
大石幸二・明星大学助教授  
野田正人・立命館大学教授  
岩崎久志・流通科学大学助教授

# 日本学校ソーシャルワーク学会 入会申込書

私は、日本学校ソーシャルワーク学会の規約に則り、学会活動に尽力することを誓約して、入会申し込みをします。

20 年 月 日申込

フリガナ 氏名			会員の別	正会員 賛助会員 (○をお付けください)	
	男・女 印		生年月日	19 年 月 日	
フリガナ 自宅住所	〒			名簿の住所掲載 ※ご自宅住所を学 会名簿に掲載不可 の場合は下記の不 可に○をつけてくださ  ( 不可 )	
	E-mail				
	Tel		Fax		
学歴	最終学歴	( )年( )月( )	)大学卒業/大学院修了		
所属先	勤務先			職名	
	在学中の大学院研究科名				
フリガナ 所属先 所在地	〒			案内等の送付先 ※入会後の希望送 付先に○をつけてく ださい。  ・自宅 ・勤務先	
	E-mail				
	Tel		Fax		
関心ある研 究テーマ					
推薦人	氏名			所属	
事務局 記入欄	承認理事会	20 年 回理事会	会員番号		
	入会日	20 年 月 日	事務局受付	20 年 月 日	

## 【入会申込みについて】

本会への入会は、本用紙に推薦人1名の署名を記入し、入会金3,000円ならびに当該年会費7,000円をそえて、下記の学会準備事務局に申込みください(本用紙は郵送で、入金は郵便振替で)。

## 【入会申込先(学会準備事務局)】

〒960-1296 福島市金谷1番地 福島大学大学院教育学研究科 鈴木庸裕研究室

FAX 024-548-8114 E-mail nsuzuki@educ.fukushima-u.ac.jp

【郵便振替】日本学校ソーシャルワーク学会 02230-7-67785